

昨年の秋

安心の介護保険制度をめざすアンケートを実施

「92.3%が将来の介護に不安」と回答

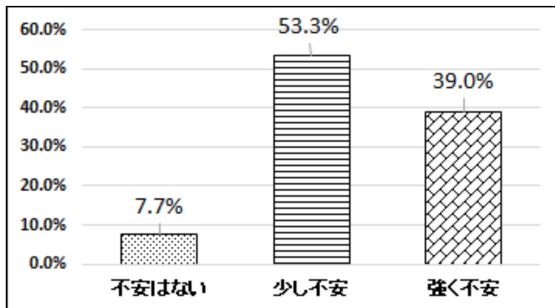
年金者組合愛知県本部・名古屋市内支部協議会（名古屋市内16区・16支部で構成、組合員約3,000人）は、2019年10月～11月に全組合員を対象に「安心の介護保険制度をめざすアンケート」を行いました。集約したアンケートは899件（回収率28.8%）。内訳は、男性254件（28.3%）、女性641件（71.3%）、不明4件（0.4%）でした。アンケート結果を紹介します。

亀谷 博光

（年金者組合愛知県本部執行委員
名古屋市内支部協議会・介護保険を
良くする委員会担当）

質問：ご自分の将来の介護について？

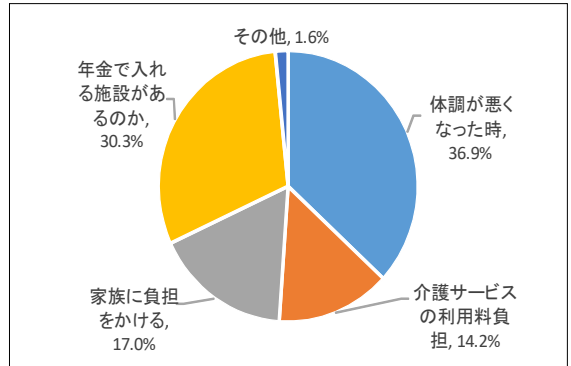
ほとんどの人が将来の介護に不安



自分の将来の介護については、特に不安が無い7.7%。不安は92.3%（少し不安53.3%＋強く不安39%）と、ほとんどの人が将来の介護不安を感じています。

介護に対する不安は

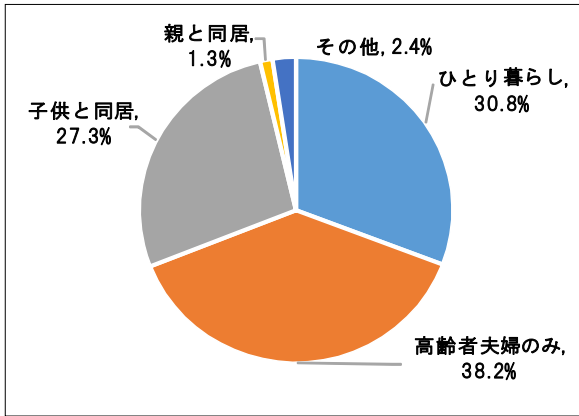
体調が悪くなったとき



不安で一番多いのは、体調が悪くなったときの36.9%です。これは、一人暮らしの方、高齢者世帯の方が抱える当然の不安です。この不安に応える施策が必要です。次に多いのが、年金で入れる施設があるか30.3%です。特養入所基準が要介護3以上に制限されたり、有料高齢者施設は「自分の年金」で入れないほど高額になっていることの反映です。次に、家族に負担をかける17.0%、介護サービスの利用料負担14.2%となっています。いずれも制度の不十分なことが不安となって現れています。

質問：あなたの世帯は？ 年金は？

一人暮らし世帯が30.8%
高齢者夫婦のみ世帯38.2%

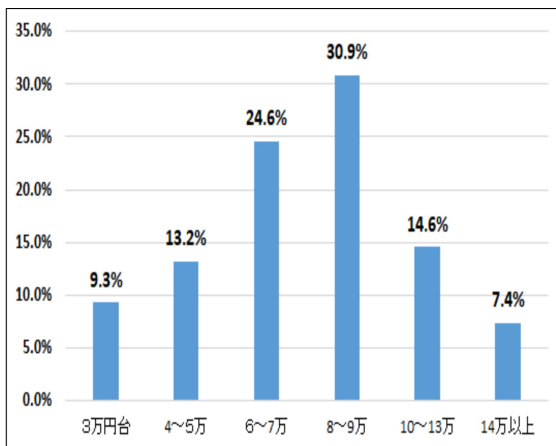


世帯構成は、一人暮らしと高齢者夫婦のみ世帯で69%となっています。これらの世帯では介護問題が共通の悩みになっています。

受給年金の種類は、国民年金が、29.9%、厚生年金（共済）54.0%、遺族年金12.4%、その他3.0%、無年金0.7%となっています。政府の年金引き下げ政策をストップさせ、最低保障年金制度の実現などで低年金額問題、無年金問題の改善が必要です。

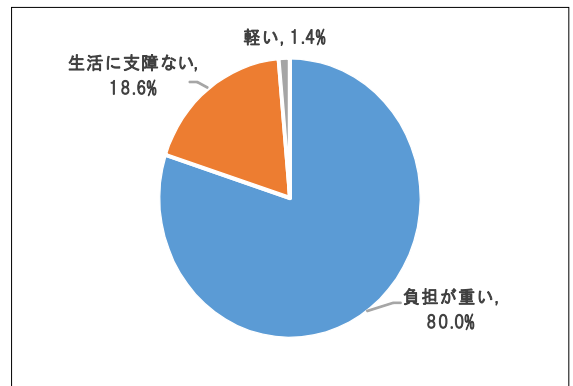
質問：自分の介護保険料をご存じですか（年額）？

介護保険料の年額負担8～9万円が30.9%



介護保険料（年額）の認知度は、知っているが83.3%、わからないが15.5%、関心が無いが0.6%でした。介護保険料の負担感は、80%の人が重いと回答。生活に支障が無い18.6%、軽い1.4%でした。国民年金の平均受給月額額は約5万5千円、厚生年金の平均受給月額は約14万5千円（厚生労働省資料H29年度）です。消費税の引上げ、低年金と保険料・利用料（介護保険料・医療保険料）の負担増が暮らしを圧迫しています。

80%の人が「保険料負担が重い」と答えています

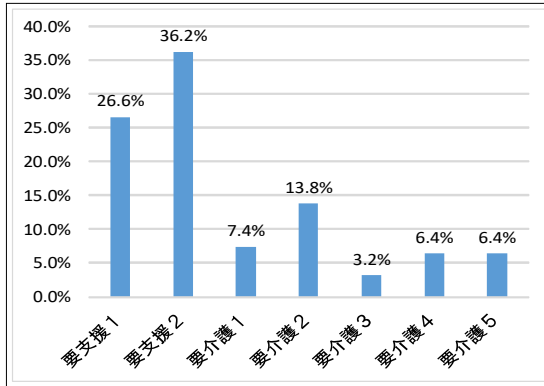


名古屋市の介護保険料は愛知県下で一番高い6,391円（基準額）、介護保険スタート時（2000年）の2,875円の2.2倍です。県下30市町村では介護保険料の減免制度を実施しています。名古屋市は介護保険料減免制度を実施するとともに、アンケートの回答から見ると介護保険料の引き下げが焦眉の課題になっています。

質問：ご自分は介護サービスを利用していますか？

介護保険の利用者は10.5%

要支援が62.8%



アンケートに応えた組合員の介護保険の利用者は95人（10.5%）。要支援1、2の方が62.8%と圧倒的に多く、要介護1と2まで含めると84%になります。政府の要介護2までの介護保険外しの狙いは、ここにあります。

質問：どんなサービスを利用していますか？

在宅ではヘルパー利用が65.4%

いろいろサービスを組み合わせて生活

利用されている在宅サービスは、ヘルパーによる・生活支援（掃除・食事づくり・買い物など）が65.4%で一番多く、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問入浴、その他の順でした。

通所サービスは、通所デイサービス、通所リハビリテーション、運動型デイサービス、ミニデイサービスの順でした。また、配食サービスなども利用されています。福祉用具では、貸与（つえ・車椅子・ベット等）・購入（便座・入浴補助用具など）・住宅改修（手すり設置・便座取り替えなど）を利用されています。要支援・要介護になっても快適に在宅で過ごすためにはこれらの制度の充実も必要です。

質問：介護サービスを利用しての感想は？

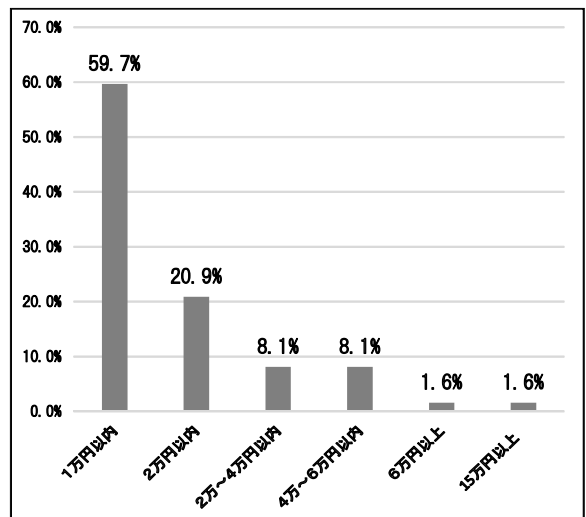
介護サービス利用の満足度は57.8%

このアンケートで入所施設利用は、サービス付き高齢者住宅を利用されている方が7人でした。介護サービスについては、57.8%が「満足」と回答されています。「不満がある」は15.7%でした。

質問：利用料金はどうですか？

月額利用料は1万円以内が59.7%

2万円までが80.6%



利用料金については、安い12.7%。適当69.8%。高い17.5%でした。これは、要支援1・2までの方の利用が62.8%と軽度での利用が多く、生活自立への効果が実感できていることの反映だと思われます。介護サービスは早い段階で利用し、生活自立の期間を長くするために活用することが大切です。

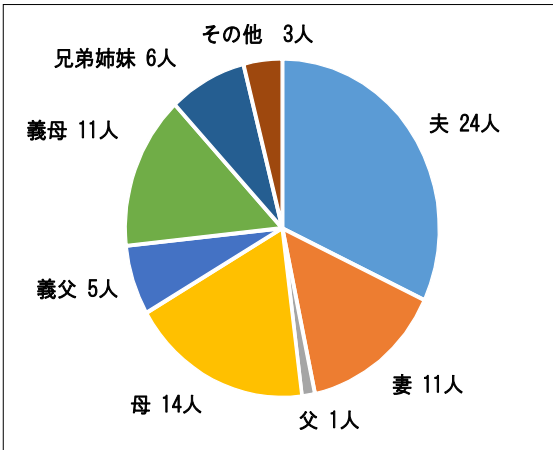
介護予防事業に参加して健康づくりを

アンケートに応えた方では、介護予防事業に参加している人は25人と多くありませんでした。年金者組合の各支部のサークル活動が健康づくり、介護予防事業の役割をはたしているのでしょうか。参加されているのは、いきいき支援センターの事業、地域のサロン、コミセンでの事業、保健所の事業、福祉会館

の順でした。健康づくりのためにも介護予防事業への参加が大切です。

質問：ご家族で介護保険を利用されている方はみえますか？

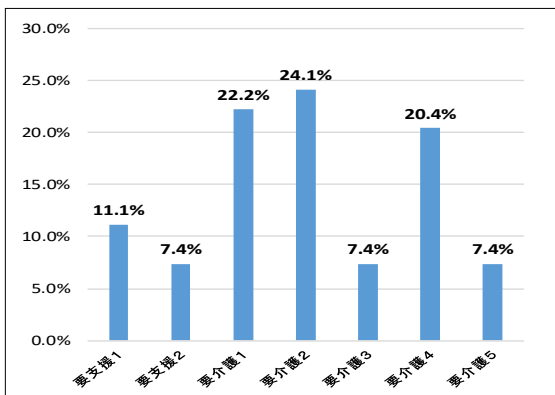
家族の介護保険利用者は75人



アンケートに応えた組合員で家族の介護保険利用は75人。夫24人、母14人、妻11人、義母11人の順に多く、家族介護の状況は、老々介護の実態がうかがえます。また、離れた家族の介護に通っている方からは「負担が大変」の声もありました

介護度は重度化

要介護3以上が35.2%



介護度は要介護1と2で46.3%。要介護3以上は35.2%と重度化されている状況があります。有料老人ホーム・特養など施設入所が14人、短期入所などの利用が11人と、介護負

担、利用料負担の大きいことがうかがえます。

また、「利用できていない」と回答された方には申請の仕方が解らない、利用料金が負担との回答もありました。

質問：どんな介護サービスを利用していますか？

介護度を反映し

いろいろ組み合わせて利用

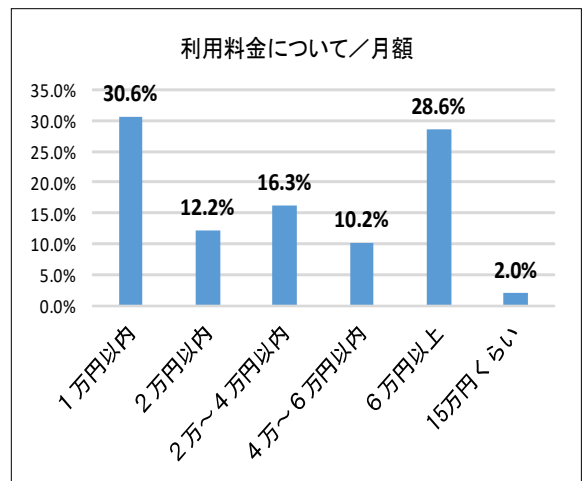
在宅サービスの利用では、訪問リハビリテーション、生活支援、訪問看護、身体介護、訪問入浴の順に多く、介護度が反映されています。

通所サービスでは、通所デイサービスの利用が圧倒的に多く、次に、通所リハビリテーション、運動型デイサービス、となっています。在宅サービスと通所サービスを併せて利用して介護されている実情がうかがえます。福祉用具などの利用では、貸与用具で・ベット、車イスの利用が多く、住宅改修では、手すりの設置、便器の取り替え。用具の購入では便座、入浴補助用具を利用されています。また、配食サービスなども利用されています。

質問：利用しての感想はどうか？利用料金はどうか？

介護サービスは

ほぼ満足75.5%、不満がある24.5%



利用料は「高い」と「生活を圧迫」で42%

介護サービス利用の感想は、「ほぼ満足」が75.5%。「不満がある」が24.5%でした。

利用料金については、回答された内、「適当56%」、「高い36%」、「生活を圧迫6%」「安い2%」でした。家族の方の利用料金の状況は表の通りです。月額介護サービスの利用料金と介護保険料・医療保険料などを合わせると負担感は介護度が重度化するほど高くなります。県下の20市町村では利用料の減免制度を実施しています。名古屋市でも同様な制度が必要です。

今年は介護保険制度が発足（2000年）して20年目となります

この間の運動（名古屋市へ要請書提出、署名など）で、6ヶ月で打ち切られていた運動型デイ・ミニデイサービスの継続利用が可能になりました（2020年4月）。昨年は、全国的な運動で、ケアプランの有料化、要介護1.2の介護保険外し、原則1割負担の2割負担化などの改悪プランをストップしてきました（今年度も提案が想定される）。

介護保険制度は「家族介護」から「社会的介護へ」の宣伝の下、「社会保険料」方式として導入されました。「利用料負担は1割」、「サービスは契約によって自由に選択できる」がうたい文句でした。この20年は「改悪」の連続でした。所得に応じて2割負担、3割負担の導入、特別養護老人ホームの入所制限（要介護3以上に）、要支援の訪問介護とデイサービスの介護保険外し、施設の食費・居住費を保険から外すなどなど、サービスの切り下げと負担増が進められてきました。一方、家族の介護負担は改善されていません。

「介護保険は『国家的詐欺』となりつつある」（元厚生省・介護保険創設時の老健局長・堤修三氏）と言われるほどです。

介護保険創設20年目も介護保険、医療保険には改悪の嵐が吹き荒れています。年金者組合では、アンケートに寄せられた声を基に「改善の要求」をまとめ、来年度予算への反

映、来年実施の「第八期介護保険事業計画」に反映する取り組みを進めています。

皆さん、介護保険を良くする運動をご一緒に行いましょう。

